



システム アップグレードの準備

この章では、さまざまなコンタクトセンター コンポーネントの一般的なアップグレード方法、アップグレードに関連するコンポーネントのアップグレード リリース バージョン、およびアップグレードに伴う依存関係と考慮事項など、実際にアップグレードプロセスを実行する前に注意すべき点について説明します。

この章は、次のセクションに分かれています。

- システム アップグレードのアプローチ (p.5-2)
- システム アップグレードの依存関係 (p.5-3)
- アップグレード リリース バージョン (p.5-9)



(注)

コンタクトセンター コンポーネントの名前の多くは、Cisco Unified Communications System の各リリースごとに変更されています。このマニュアルでは、以前のリリースの製品を指す場合でも、最新の製品名のみを使用しています。

システムアップグレードのアプローチ

一般には、各 Cisco Unified Communications Manager クラスタ（およびそれに関連付けられたすべてのコンタクトセンターコンポーネント）を一度に1つアップグレードしてから、次のクラスタをアップグレードします。

各クラスタごとに、次の順序に従ってコンタクトセンターコンポーネントの Cisco Unified Communications ファミリの各コンポーネントをアップグレードします。

1. インフラストラクチャコンポーネントおよびセキュリティコンポーネント（コアスイッチ、アクセススイッチ、ルータ、セキュリティコンポーネントなど）
2. Cisco 音声ゲートウェイおよびゲートキーパー



(注) これらのコンポーネントを最初にインストールすることにより、Cisco Unified Communications System のコンポーネントに必要なサービスをインフラストラクチャでサポートできるようにする必要があります。

3. ネットワーク管理コンポーネント
4. コンタクトセンタールーティングコンポーネント
5. Agent Management コンポーネント
6. Agent デスクトップアプリケーションクライアント
7. 呼処理コンポーネント
8. キューイング、セルフサービスコンポーネント
9. メッセージコンポーネント

上記コンポーネントのアップグレード順序については、第6章「システムアップグレードの実行」を参照してください。



(注) アップグレードが失敗した場合に備えて、包括的な「バックアップ」計画を策定しておいてください。

コンタクトセンターコンポーネントのアップグレードシーケンスでは、次の点を考慮してください。

- これらのコンポーネントが提供するサービスの重要性。たとえば、基本的な電話サービスは、補足サービスやボイスメッセージサービスよりも重要であると見なされます。
- これらのコンポーネントのソフトウェアリリースの下位互換性。詳細については、「[下位互換性のシナリオ](#)」(p.5-7) を参照してください。
- 各ベースリリースセットの詳細については、「[アップグレードリリースバージョン](#)」(p.5-9) を参照してください。Unified Communications Manager の前後にアップグレードする必要のあるコンポーネントについての説明、またはアップグレード順序が不要な場合についての説明が記載されています。

システムアップグレードの依存関係

各リリースセット内のコンポーネントは、互いに互換性があり、正常に相互運用できる必要があります。たとえば、特定のベース リリース セットに含まれる各コンポーネントは相互に互換性があり、相互運用することができます。ターゲット リリース セットの各コンポーネントも同様です。

マルチステージ システム アップグレードおよびマルチサイト移行アップグレードでは、各段階（メンテナンス期間）でリリース セット内の一部のコンポーネントだけをアップグレードします。そのため、ここで説明するアップグレードでは特に、下位の互換性や非互換性の影響も考慮に入れて操作の順序を決める必要があります。

ただし、統合システムの個々のコンポーネントをアップグレードする場合、次のリリース レベルにアップグレードしたコンポーネントが、以前のリリース レベルのコンポーネントと相互運用できないと、システム全体が、サービスが低下した状態で動作する可能性があります。

最初にアップグレードするコンポーネントは、以前のリリース レベルの他のコンポーネントと相互運用できる必要があります。たとえば、ゲートウェイは、Unified Communications Manager の前にアップグレードします。したがって、次のリリース レベルに移行したゲートウェイは、まだアップグレードされていない旧リリース レベルの Unified Communications Manager と相互運用できる必要があります。

Cisco Unified Communications Manager のアップグレードと互換性に関する考慮事項

一部のコンポーネントは、Unified Communications Manager の前にアップグレードする必要があります。そのため、特定のアップグレードに関する問題や考慮点には注意する必要があります。

移行に関する一般的なガイドライン

アップグレード前の移行

次の条件があてはまる場合、Unified Communications Manager をアップグレードする前に、Cisco Unified Communications System アプリケーション（Cisco Unified Contact Center Enterprise (Unified CCE) など）を移行することができます。

- アプリケーションの既存バージョンと Unified Communications Manager の既存バージョンに互換性がある場合
- アプリケーションの既存バージョンと Unified Communications Manager の新規バージョンに互換性がない場合
- アプリケーションの新しいバージョンが、Unified Communications Manager の既存バージョンと新規バージョンの両方と互換性がある場合

アップグレード後の移行

次の条件があてはまる場合は、Cisco Unified Communications System をアップグレードしてから、Cisco Unified Communications System アプリケーション（Unity Connection など）を移行する必要があります。

- アプリケーションの既存バージョンと Unified Communications Manager の既存バージョンに互換性がある場合
- アプリケーションの既存バージョンと Unified Communications Manager の新規バージョンに互換性がない場合
- アプリケーションの新しいバージョンが、Unified Communications Manager の新しいバージョンと互換性はあるが、既存バージョンとは互換性がない場合

Unified Communications Manager、Unified Contact Center Enterprise、Unified System Contact Center Enterprise、Unified IP IVR、その他の Cisco Unified Communications コンタクトセンター製品に関する互換性については、次のサイトを参照してください。

- Cisco Unified Communications Compatibility Tool :
<http://tools.cisco.com/ITDIT/vtgsca>
- Cisco Unified Communications Manager (CallManager) の互換性情報 :
http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/products_device_support_tables_list.html

Cisco Unified Communications Manager Release 4.3(1) から Release 7.0(1) へのアップグレード

Cisco Unified Communications System Release 4.3(1) から Cisco Unified Communications System Release 7.0(1) にアップグレードする場合は、Cisco Unified Communications Manager に関する次の制限事項に注意してください。

- ターゲット リリース バージョンの Release 7.0(1) にアップグレードする前に、Cisco Unified Communications Manager from Release 4.3(1) から暫定版 Release 4.3(2) にアップグレードします。
- オペレーティング システム、およびデータベースの変更を行います。
 - Microsoft Windows オペレーティング システムからアプリケーション モデル (Linux) 環境へのオペレーティング システムの変更
 - Microsoft SQL から IBM IDS へのデータベースの変更
- Unified Communications Manager のクラスタが 1:1 の冗長モデルで構成されている場合は、アップグレード中のダウンタイムを最小限に抑えることができます。それには、プライマリ サブスクリバとバックアップ サブスクリバの間でデバイス登録の負荷を分散させます。この方法により、いずれかのサブスクリバサーバで障害が発生したり、メンテナンスのための停止が行われたりした場合、他方のサブスクリバにフェールオーバーする必要があるのは、半分のデバイスだけで済み、すべてのデバイスが動作を続行できます。
- シスコによって認定されているソフトウェアに限り、システム インストーラでアップロードして処理することができます。以前の Unified Communications Manager 4.x バージョンで使用していたサードパーティ製ソフトウェア (アンチウイルス ソフトウェア) または Windows ベースのソフトウェア アプリケーションは、現在の Unified Communications Manager 7.0(1) リリース バージョンでインストールしたり使用したりすることはできません。
- Unified Communications Manager 4.3(1) への移行を始める前に、クラスタ内の全サーバで Unified Communications Manager Upgrade Utility 7.0(1) を実行してください。このユーティリティにより、Unified Communications Manager アップグレードが失敗する原因となる問題を特定することができます。クラスタ内の全サーバが検証に合格してから、サーバのアップグレードを行ってください。
- アップグレードを実行する前に、Unified Communications Manager のバックアップ / 復元ユーティリティ、CDR Analysis and Reporting (CAR) を使用して、既存の Unified Communications Manager および Call Data Record (CDR) クラスタ データベースを外部ネットワーク ディレクトリにバックアップすることを推奨します。次に、Data Migration Assistant を使用して、データベースの移行を実行します。この方法により、アップグレードが失敗しても、データ損失を防止できます。
- Data Migration Assistant を使用してデータベースを移行するときは、次の点に注意してください。
 - まず必ず手動でバックアップを行い、保留音、電話ファームウェア、および背景画像のカスタム ファイルをリストアします。
 - CAR と CDR のデータは、移行前に CDR プラグインをインストールした場合に限り、移行します。

- Cisco Unified IP IVR 4.1(1) SR1 では Unified Communications Manager 7.0(1) はサポートされず、Unified IP IVR 7.0(1) では Unified Communications Manager 4.3(1) はサポートされません。長期のサービス停止を避けるには、Unified Communications Manager とそのコンポーネントをアップグレードしたあと、同じメンテナンス期間中に Cisco Unified IP IVR システムのフレッシュインストールを実行する必要があります。
- Unified Communications Manager サーバをアップグレードする場合は、Unified IP Phone のソフトウェアが、Unified Communications Manager に付属のバージョンに自動的にアップグレードされることに注意してください。
- Unified Communications 4.3(1) データベースで設定されていない電話ライセンスを持つ Unified IP Phone は、Data Migration Assistant を実行する前に設定を行います。そうすることで、ツールがこれらのライセンスを検索および取得できるようにします。

Cisco Unified Communications Manager 6.1(1a) から Release 7.0 (1) へのアップグレード

Cisco Unified Communications System Release 6.1(1) から Release 7.0(1) にアップグレードする場合は、Cisco Unified Communications Manager に関する次の制限事項に注意してください。

- Unified Communications Manager の場合、Software Upgrade メニュー オプションで、Unified OS Administrator の GUI または CLI のいずれかのインタフェースを使用して、すべてのソフトウェアのインストールとアップグレードを実行する必要があります。シスコが認定するソフトウェアに限り、システム インストーラでアップロードして処理することができます。
- アップグレードを実行する前に、Disaster Recovery System を使用して、Unified Communications Manager および CDR Analysis and Reporting (CAR) のデータベースを外部ネットワーク ディレクトリにバックアップすることを推奨します。この方法により、アップグレードが失敗しても、データ損失を防止できます。
- Unified Communications Manager 6.1(1a) リリースを Cisco Unified Communications Manager 7.0(1) にアップグレードしたあと、Unified Communications Manager 7.0(1) のソフトウェア機能ライセンス ファイルをアップロードして、Cisco CallManager サービスを再起動します。以上の作業を完了しないと、Cisco CallManager サービスはアクティブ化されず、デバイスも正しく登録されません。
- Unified Communications Manager 6.x リリースを 7.x リリースにアップグレードする際に、電話メッセージングに対する下位互換性が必要になる場合は、Phone Services ページでメッセージ サービスを追加する必要があります。
- Unified Communications Manager のクラスタが 1:1 の冗長モデルで構成されている場合は、アップグレード中のダウンタイムを最小限に抑えることができます。それには、最初のノード（プライマリ）とバックアップされた他のノード（サブスライバ）の間でデバイス登録の負荷を分散させます。この方法により、後続のいずれかのノードサーバで障害が発生したり、メンテナンスのための停止が行われたりした場合、残りのノードにフェールオーバーする必要があるのは、半分のデバイスだけで済み、すべてのデバイスが動作を続行できます。
- Unified Communications Manager のクラスタをアップグレードする場合は、最初のノードを必ず最初にアップグレードする必要があります。アップグレード後、最初のノードをリブートせずに、後続のノードも同時にアップグレードすることができます。その際、リブートは不要です。
- クラスタ内のすべてのノードをアップグレードしたら、以下の手順を順番どおりに実行します。
 1. 最初のノードでリブートして、バージョンを Unified Communications Manager 7.0(1) に切り替え、ノードが初期化されて完全に機能するまで待ちます。
 2. アップグレード ライセンス、および他の必要なライセンスをすべてインストールします。
 3. リブートを実行して、バージョンを Unified Communications Manager 7.0(1) に切り替えます。この手順は、まず専用の TFTP サーバおよび Music-On-Hold (MOH; 保留音) サーバで実行します。
 4. TFTP サーバによって、設定ファイルが完全に構成されるまで待ちます。

5. リポートを実行して、バックアップおよび呼処理の後続ノードのバージョンを Unified Communications Manager 7.0(1) に切り替えて、これらのサーバが完全に初期化されるまで待ちます。
 6. リポートを実行して、クラスタ内の残りのアクティブな後続ノードのバージョンを Unified Communications Manager 7.0(1) に切り替えて、アップグレードを完了させます。
- Unified Communications Manager サーバをアップグレードする場合は、Unified IP Phone のソフトウェアが、Unified Communications Manager に付属のバージョンに自動的にアップグレードされることに注意してください。

Cisco Unified IP Phone アップグレードに関する考慮事項

Unified IP IVR のアップグレード時には次の点に注意してください。

- Unified IP IVR 4.1(1) では Unified Communications Manager 7.0(1) はサポートされず、Unified IP IVR 7.0(1) では Unified Communications Manager 4.3(1) はサポートされません。長期のサービス停止を避けるには、Unified Communications Manager とそのコンポーネントをアップグレードしたあと、同じメンテナンス期間中に Unified IP IVR システムのフレッシュ インストールを実行する必要があります。
- CAD エージェントは Windows 2000 オペレーティングシステムではサポートされなくなったため、Windows オペレーティングシステムを Windows XP または Windows Vista のいずれかにアップグレードする必要があります。

Cisco Unified IP Phone に関する考慮事項

Cisco Unified IP Phone のアップグレード時には次の点に注意してください。

- Unified Communications Manager サーバをアップグレードする場合は、Unified IP Phone のファームウェアも、Unified Communications Manager に付属のバージョンに自動的にアップグレードされることに注意してください。
- Unified Communications 4.3(1) データベースで設定されていない電話ライセンスを持つ Unified IP Phone は、Data Migration Assistant を実行する前に設定を行います。そうすることで、ツールがこれらのライセンスを検索および取得できるようにします。

SIP Unified IP Phone の詳細、および SCCP 電話機と SIP 電話機の機能の違いについては、次のマニュアルを参照してください。

- 『Cisco Unified IP Phones 7900 Series Maintain and Operate Guides』 :
http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/prod_maintenance_guides_list.html
- 『Cisco Unified IP Phones 7900 Series End-User Guides』 :
http://www.cisco.com/en/US/products/hw/phones/ps379/products_user_guide_list.html
- 『Cisco Unified Communications SRND based on Cisco Unified Communications Manager 7.x:』 の「Unified Communications Endpoints」の章 :
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucm/srnd/7x/endpnts.html#wp1044056

下位互換性のシナリオ

マルチステージ システム アップグレードのシナリオでは、コンポーネント間の下位互換性なども考慮する必要があります。

あるコンポーネントの特定のバージョンと別のコンポーネントの旧バージョンとの下位互換性は、2つのコンポーネントバージョン間でサービスの機能および動作が保持される場合に有効です。2つのコンポーネントまたはアプリケーション間の下位互換性により、コンポーネントのアップグレード順序が制限されたり、アップグレード中にサービス停止が発生したりすることがあります。

マルチステージシステムアップグレードまたはマルチサイト移行アップグレードのシナリオのように、2つのコンポーネントが個別のメンテナンス期間中にアップグレードされる場合、2つのメンテナンス期間に挟まれた期間中は、システム全体が部分的にアップグレードされた状態となります。

このセクションで説明するように、メンテナンス期間に挟まれた期間中は、2つのコンポーネント間に下位互換性があるかどうかによって、サービス機能が保持されるかどうかが決まります。2つのコンポーネント間に下位互換性がない場合、2つのメンテナンス期間に挟まれた期間中は、サービス停止が発生します。

アップグレードプロセス中は、「[下位互換性のシナリオ](#)」(p.5-7) の状況が発生する可能性があります。詳細については、[第 6 章「関連資料」](#)に示されているコンポーネント互換性マトリクスを参照してください。

下位互換性のシナリオ

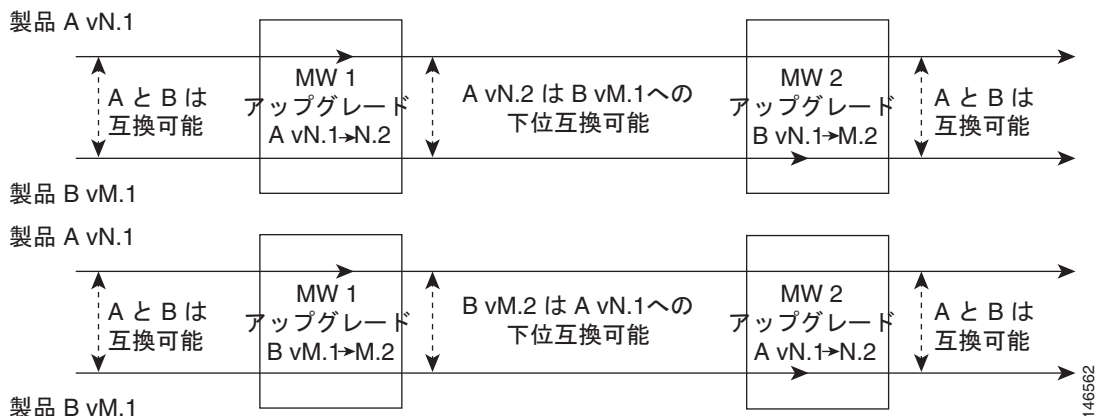
両方の新しいバージョンに下位互換性がある場合

2つのコンポーネントの新しいバージョンに、他のコンポーネントの旧バージョンとの下位互換性がある場合。

この場合、下位互換性に関連するアップグレードの順序の制限はありません。いずれのコンポーネントを先にアップグレードしてもかまいません。[図 5-1](#)に示すように、他のコンポーネントと相互運用することができます。ここでは、Unified CCE および Unified Communications Manager の例を示します。

これらのコンポーネントのアップグレードは、複数のメンテナンス期間にわたって実行できます。このタイプのアップグレードについては、[第 4 章「システムアップグレードの計画」](#)のマルチステージシステムおよびマルチサイト移行のアップグレードアプローチのセクションで説明しています。

図 5-1 両方の新しいリリースバージョンに下位互換性がある場合

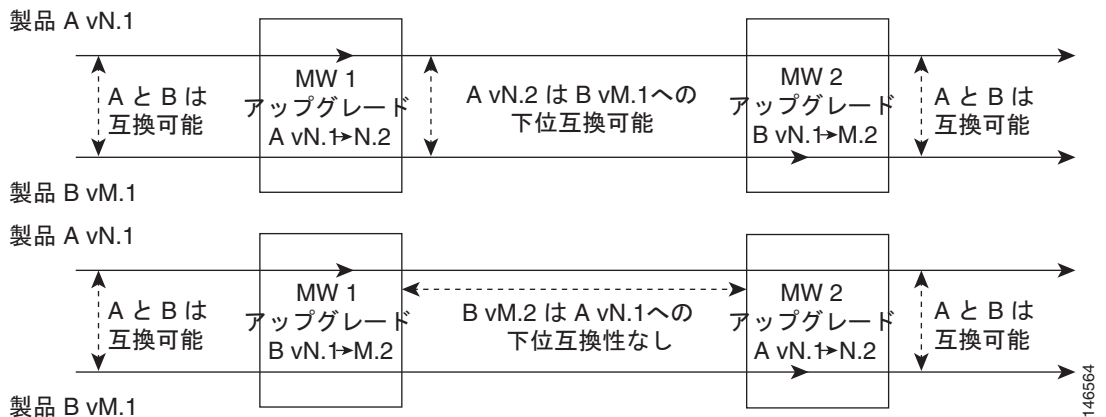


一方の新しいバージョンだけに下位互換性がある場合

一方の新しいバージョンだけが、他方のコンポーネントの旧バージョンとの下位互換性がある場合。
 この場合は、アップグレード中のサービス停止を避けるため、下位互換性を持つコンポーネントを先にアップグレードする必要があります(図 5-2 を参照)。ここでは、Unity Connection および UNified Communications Manager の例を示します。

これらのコンポーネントのアップグレードは、2つの個別のメンテナンス期間にわたって実行する必要があります。このタイプのアップグレードについては、第4章「システムアップグレードの計画」のマルチステージシステムおよびマルチサイト移行のアップグレードアプローチのセクションで説明しています。

図 5-2 一方の新しいバージョンだけに下位互換性がある場合

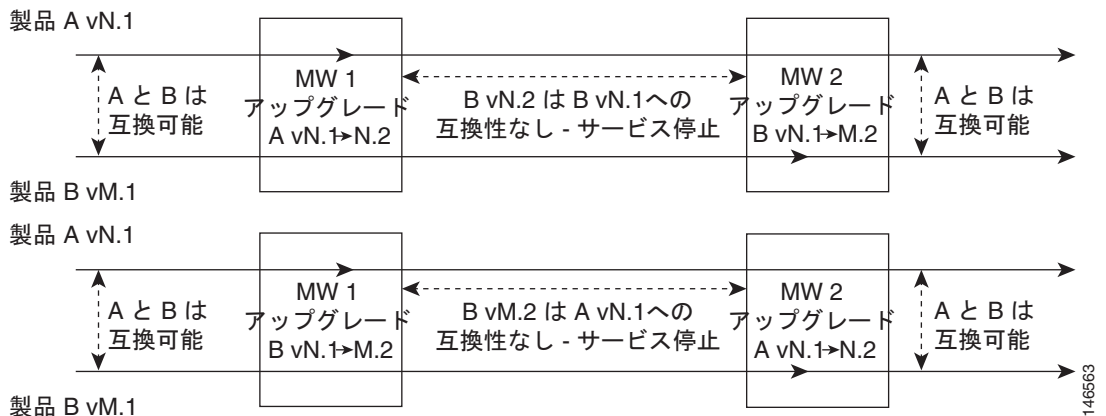


どちらの新しいバージョンにも下位互換性がない場合

新しいバージョンのいずれにも、他方のコンポーネントの旧バージョンとの下位互換性がない場合。
 この場合は、最初の製品がアップグレードされてから2番目のコンポーネントがアップグレードされるまでの間、サービス停止状態になります(図 5-3 を参照)。

どちらのコンポーネントも互いに下位互換性を持たないため、サービス停止を防ぐには、両方のコンポーネントを同じメンテナンス期間中にアップグレードする必要があります。このアップグレードについては、第5章「システムアップグレードの準備」の単一ステージアップグレード方法で説明しています。

図 5-3 どちらの新しいリリースバージョンにも下位互換性がない場合



アップグレード リリース バージョン

このセクションの各表では、ベース リリース セットおよびターゲット リリースセット内のコンポーネントのリリース バージョンを示し、Unified Communications Manager 7.0(1) に関連する追加の互換性情報およびアップグレード シーケンス情報を提供します。

表は次の要素で構成されます。

- 列1: アップグレードプロセスに関連するコンタクトセンター コンポーネント
- 列2: コンタクトセンターのリリース バージョン
- 列3: ターゲット リリース セットにあるコンタクトセンター コンポーネントのリリース バージョン
- 列4: Unified Communications Manager に関連するコンタクトセンター コンポーネントのアップグレード順序（「任意」は、そのコンポーネントが Unified Communications Manager の前後いずれにでもアップグレードできるという意味です）

Release 4.5 と Release 7.0(1) のソフトウェア リリース セット

表 5-2 に、IP Communications System Test Release 4.5 と Cisco Unified Communications System Release 7.0(1) リリース セットに含まれるコンタクトセンター コンポーネントの各ソフトウェア バージョンを示します。

表 5-1 IP Communications System Test Release 4.5 および Cisco Unified Communications System Release 7.0(1) リリース セットのコンタクトセンター コンポーネント

コンポーネント	Release 4.5 リリース セット	Release 7.0(1) リリース セット	アップグレードの順序 (Unified Communications Manager に対して)
Cisco Unified Communications Manager	4.3(1) ¹	7.0(1)	—
Cisco Unified IP IVR	4.1.1	7.0(1)	任意
Cisco Unified IP IVR オペレーティング システム	2003.1.1 SR5	2003.1.2a SR13	—

1. このベース リリースの場合、まず Unified Communications Manager を暫定版の Release 4.3(2) にアップグレードしてから、ターゲット リリース バージョンにアップグレードする必要があります。このアップグレード パスのテストは、Unified Communications Manager と Unified IP IVR のアップグレードを中心に行われています。

■ アップグレードリリースバージョン

Release 6.1(1) と Release 7.0(1) のソフトウェア リリース セット

表 5-2 に、Cisco Unified Communications System Release 6.1(1) と Release 7.0(1) リリース セットに含まれるコンタクトセンター コンポーネントの各ソフトウェア バージョンを示します。

表 5-2 Cisco Unified Communications System Release 6.1(1) および Release 7.0(1) リリース セットのコンタクトセンター コンポーネント

コンポーネント	Release 6.1(1) リリース セット	Release 7.0(1) リリース セット	アップグレードの順序 (Unified Communications Manager に対して)
Cisco Unified Communications Manager	6.1(1a) ¹	7.0(1)	—
Cisco Unified Presence	6.0(2) ¹	7.0(1)	任意
Cisco Unified Intelligent Contact Management Enterprise および Cisco Unified Contact Center Enterprise	7.2(2)	7.5(1)	前
Cisco Unified Intelligent Contact Management Enterprise および Cisco Unified Contact Center Enterprise オペレーティング システム	Win2003 SP2/ Win2003 R2 SP2	Win2003 SP2/ Win2003 R2 SP2	—
Cisco Support Tool	2.2(1)	2.3(1)	Unified ICME によるアップグレード
Cisco Unified Expert Advisor	—	7.0(1)	任意
Cisco Unified IP IVR	5.0(2)	7.0(1) ²	任意
Cisco Unified IP IVR オペレーティング システム	2003.1.2a SR5	2003.1.2a SR13	—
Cisco Unified Customer Voice Portal	4.0(2) ³	7.0(2)	任意
Cisco Unified Customer Voice Portal オペレーティング システム	Win2003 SP2/ Win2003 R2 SP2	Win2003 SP2/ Win2003 R2 SP2	—
Cisco Unity Connection および Unity TSP	2.0 & 8.1(3)	7.0(1) ⁴ & 8.1(3)	Unified Communications Manager と同じメンテナンス期間中に Unity TSP をアップグレード Unified Communications Manager のあとに Unity Connection をアップグレード
Cisco IP Communicator	2.1(1)	2.1(3)	任意
Cisco Unified Personal Communicator	—	7.0(1)	任意
Cisco Unified IP Phone (7921G (ワイヤレス)、7940、7940G、7960、7960G、7962、7970、7970G、7985G (ビデオ))	Unified Communications Manager にバンドル	Unified Communications Manager にバンドル	—
Cisco Unified Operations Manager	2.0.2	2.1 ⁵	任意
Cisco Catalyst 6500 シリーズ Firewall Services Module (FWSM)	3.2(2)	4.0(3) ⁵	任意

表 5-2 Cisco Unified Communications System Release 6.1(1) および Release 7.0(1) リリース セットのコンタクトセンター コンポーネント (続き)

コンポーネント	Release 6.1(1) リリース セット	Release 7.0(1) リリース セット	アップグレードの順序 (Unified Communications Manager に対して)
Cisco Adaptive Security Appliance (ASA) 5540 サービス	8.0(3)	8.0.4.3	任意
Cisco Security Agent Management Center for Cisco Security Agent	5.0.0.216	5.2.0.245	—
Cisco Security Agent for Unified Communications Manager	Unified Communications Manager にバンドル	Unified Communications Manager にバンドル	—
Cisco Security Agent for Cisco Unified IP IVR	5.0.0.217 /3.0.6	5.0.0.217-3.0.6	—
Cisco Security Agent for Unified Intelligent Contact Management	5.0.0.210 /3.0.1	5.2.0.245-4.0.1	—
Cisco Security Agent for Unified Customer Voice Portal	5.2.0.203 /2.2.1	5.2.0.268	—
Cisco IOS メインライン リリース ⁶	—	12.4(18c)	
Cisco 3725, 3745 (Unified CVP VXML、音声 / データ、H.323、SIP、MGCP ゲートウェイ)	12.4(15)T3	12.4(15)T7 ⁷	任意
Cisco 3825, 3845 (Unified CVP VXML、音声 / データ、H.323、SIP、MGCP ゲートウェイ)	12.4(15)T3	12.4(20)T	任意
Cisco AS5400HPX ⁸ 、AS5400XM (Unified CVP VXML、音声、H.323、PSTN ゲートウェイ)	12.4(15)T3	12.4(20)T	任意
Cisco AS5850 ⁸ (PSTN および音声 ゲートウェイ)	12.4(15)T3	12.4(20)T	任意
Cisco 3745 (ゲートキーパー)	12.4(15)T3	12.4(15)T7 ⁷	任意
RSVP エージェント (38xx プラットフォーム)	12.4(15)T3	12.4(20)T	任意
Cisco 7206 (コア ルータ /WAN ルータ)	12.4(15)T3	12.4(20)T	任意
Cisco 871 ルータ	12.3(8)Y12	—	任意
Cisco 881 ルータ	—	12.4(20)T	任意
Cisco Catalyst 3750 (アクセス スイッチ)	12.2(25)SEE2	12.2(25)SEE4	任意
Cisco Catalyst 6506、6509 (コア スイッチ、Supervisor 2)	CatOS 8.5(8)	CatOS 8.5(8)	任意
Cisco Catalyst 6506、6509 (MSFC、Supervisor 2)	12.2(18)SXF8	12.2(18)SXF11	任意
Cisco Catalyst 6506、6509 (Supervisor 720)	12.2(18)SXF8	12.2(18)SXF11	任意

■ アップグレードリリースバージョン

表 5-2 Cisco Unified Communications System Release 6.1(1) および Release 7.0(1) リリース セットのコンタクトセンター コンポーネント (続き)

コンポーネント	Release 6.1(1) リリース セット	Release 7.0(1) リリース セット	アップグレードの順序 (Unified Communications Manager に対して)
Cisco CSS 11501 Content Services Switch	WebNs 7.50.3.3	WebNs 7.50.3.3	後
Cisco Catalyst Communications Media Module (CMM)	12.4(15)T3	12.4(15)T7 ⁷	任意
Cisco Aironet 1240AG アクセス ポイント	12.3-8.JA2	12.3-8.JA2	任意
McAfee Antivirus	Enterprise 8.0.0 パッチ バージョン 11	Enterprise 8.0.0 パッチ バージョン 11	任意

1. コンポーネント ソフトウェアを実行しているサーバに関する重要な情報については、次の URL の『System Release Notes for Contact Center: Cisco Unified Communications System Release 6.1(1)』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/uc_system/UC6.1.1/release_notes/rnipc611.html
2. 2008 年第 4 四半期から入手可能な Engineering Special or Service Release で障害 CSCsr91804 に対応します。
3. Unified CVP Release 4.0(2) に関連する Engineering Special については、次の URL の『System Release Notes for Contact Center: Cisco Unified Communications System Release 6.1(1)』を参照してください。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/uc_system/UC6.1.1/release_notes/rnipc611.html
4. 2008 年第 4 四半期から入手可能な Engineering Special or Service Release で障害 CSCsr83757 に対応します。
5. 2008 年第 4 四半期に発行予定
6. 追加された PSTN の基本機能、およびコンタクトセンター環境でロールバックテストの一環として実行したロードテストには、IOS メインラインリリース 12.4(18b) を使用しました。
7. Cisco IOS Release 12.4(15)Tx は、37xx シリーズおよび CMM プラットフォームでサポートされる最後のリリースとなります。これらのリリースは、Release 12.4(20)T ではサポートされません。
8. これらのゲートウェイは Cisco AS5400XM ゲートウェイに変わります。